【テーマ3：教師の主体的な研修を促す効果的な受講奨励プロセスのモデル開発】

【団体名】埼玉大学

調査協力：さいたま市教育委員会（さいたま市立教育研究所）
・インタビュー調査　計86校（さいたま市立小学校49校、同中学校28校、同高等学校（中等教育学校を含む）4校、同特別支援学校2校、埼玉県立特別支援学校3校）
・検証校（意見聴取）　計32校（さいたま市立小学校20校、同中学校10校、同高等学校1校、同特別支援学校1）1校
・アンケート調査（さいたま市内学校長回答数62件、同教員239件）

モデル開発概要

現場における課題

教師の主体的な研修を実現するにはどうすればよいか？
そのために管理職は教師にどう関与するべきなのか？
教師の業務過多の中での、効果的な研修の受講奨励はどうあるべきか？

モデルの概要

「自己決定理論」を教師の主体的な研修受講のプロセスに重ねて示した【理論モデル】を作成。それを前提として、学校管理職による学校経営の総体の中で、実施される対話や関与の適時性・適切性を可視化し、それらを効果的に研修受講奨励と関連させるプロセスを示す【実践モデル】を作成。
プロセスモデル図の解説として、各種の調査研究の成果を研修の受講奨励の要点として示す。

活用する技術・ツール等

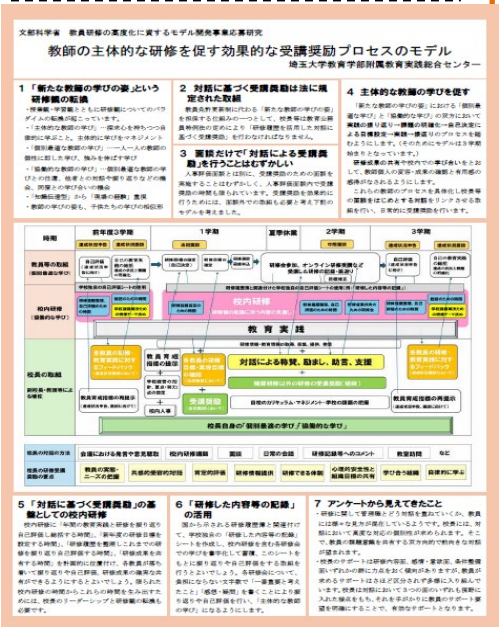
【実践モデル】とその解説の**ポスター**

高度化に資する取組

教師の教育実践や研修、校内研修、管理職の対話をはじめとする働きかけなどを、管理職と教師それぞれが別々のものとして取り組むのではなく、本モデルを参考に有機的に関連付けてそれぞれの効果を上げていくことを目指す。

教師の実践と学びの振り返り→課題の明確化→研修の目標設定と自己決定→実践→振り返りの流れの推進にむけて、管理職との対話による受講奨励や働きかけをどう効果的に機能させていくのか、そのための環境整備をとはどのようなものかなどを示した。

【実践モデル】とその解説を記載したポスター



モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

管理職だけでなく、教員全体でモデルを共有して得られる効果

- 教員の個別最適な学び、協働的な学びが実現する。
- 管理職と教員との関係構築の一助になる。
- 研修主事等にとっては、年間の研修に見通しがもてる。
- 研修受講状況の傾向を全体でも把握することで、研修の組織づくりに活用できる。
- 管理職にとっては、学校経営全体の中の関連付けが進む。